

平成30年度第2回放送番組審議会 議事録

開催日時 平成31年2月13日(水) 14時から15時25分
開催場所 三次商工会議所 2階会議室
出席者委員 添田龍彦・重信富子・落田正弘・平岡淳・岸田立・山岡幸子・前田茂
岩崎積・石田睦子
欠席者委員 千崎由博・宗清弘樹
説明員 (株)三次ケーブルビジョン
新宅代表取締役社長・林常務取締役
幸住管理課長・津田営業課長・向井制作課長・坪井技術課長

- 1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言。続いて代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。
- 2 会長挨拶 添田会長が挨拶を行ない、当放送番組審議会は放送法に定められた法定審議機関であること。委員の皆さんには様々な忌憚のない意見を頂戴したいと述べた。
3. 事務局 出席委員は9名、欠席委員は2名で、放送番組審議会規則第6条第2項により有効にこの放送番組審議会が成立している旨告げる。
4. 審 議 審議に先立ち、制作課長が1月14日放送の情報ストリート「あっちこっち三次祝日版」編成趣旨を説明する。この番組は2年間かけて蓄積した三次市内の空撮映像番組。三次の美しい18カ所のドローンでしか撮影できない空中散歩映像を30分(正味27分)にまとめた旨、資料に基づき説明した。(事前にDVDを送付した。)

会長(司会) 視聴いただいたDVDの内容について、忌憚のない意見を願います。

委 員 ドローン映像を見て、大変すばらしいと思った。普通では見ることのできない角度からの映像で、三次市の観光PRに十分使えるものだ。ドローン活用は災害時なども想定されていると思うが、有効利用を期待したい。

委 員 夜間飛行の時に、字幕で「許可が必要です」と記載されていたのは良かった。カメラの角度を動かすとき、もう少しスムーズに動けばもっといいと思う。ドローンはめったに見れない上からの映像が観れる。それが特徴だが、いろい

ろな視点があるのではないか。例えば三次町内のウダツの高さで飛んだら、どんな映像になるだろうか。少し工夫されれば、もっと良い映像が取れるだろうと期待する。三和町の千本桜の映像は大変きれいだった。私もやってみたいと思う人もいるだろうから、すかさず、講習会を開いてはどうかと思った。

委員 楽しませていただいた。BGMが勝っており、ナレーションはなかった。歌詞がでない音楽の方がいいかなとも思った。豪雨災害時の映像が、大変印象に残っており、様々活用してほしい。難しいなと思ったのは桜の景色だが、地上から見て青い空がバックにあると大変きれいだが、上から見て、地上が花のバックだと、どうしても桜がぼやけた感じになる。よりきれいに写せる技法が無いのだろうかと思う。私たちがやっている比叡尾城を名所にしたいと思っているので、山城跡を空から撮影すれば…と期待している。

委員 今までの番組の一部をまとめて…と字幕が入っていたので、集積したものと理解できた。川西の川を撮影した映像がすごくきれいだった。歌も良かった。上から、ああいう角度で見るとはあこがれた。楽しく見せてもらった。

委員 僕は一番高谷山の霧の海の映像がキレイだなと感じた。地元出身歌手の歌がBGMで流れており、大変親しみやすいと感じた。桜の季節が多かったと思うが、いろいろとテーマを設けることで、様々な活用ができると感じたが、少し言葉が入ればもう少し幅が広がるのではないか。これからの活用に期待したい。

委員 全体的には良かった。しかし、画面がアップになったり引いたりした際に、少し目が舞う感じがした。自分の目がついていかないような部分があった。もっとゆっくりに、なればいいのになと思った。またナレーション的なものを流してもらえば、音楽一辺倒よりいいのではないかと感じた。

委員 映像を見て、こうした撮影も可能となり、いい時代になったなあと思った。よくものを見るとき、鳥の目、虫の目、魚の目、コウモリの目で見えていこうじゃないかという言葉があるが、私はどの目にもなりえないけれど、まず、鳥の目の高さで三次の各地の四季を網羅してあり、いい風景が拝見できたなあと思い、まず感動した。そして、三次在住の人や、三次に縁のある方々の歌が挿入されていて、身近に三次を感じる事ができて、良かったなあと思った。これで常清滝を撮ったら、どんな映像を見ることができようと思った。甲奴地区の映像がなかったように感じたが、今後も各地の良い風景を見せてもらえることを楽しみにしたい。

委員 ほとんど出尽くしたと思うが、改めて三次の良さを見直した。私は三和町に住んでいるが、改めて三和が好きになる感動を覚えた。また、水田がなんて綺麗なんだろうと思った。霧の海も、とても良い映像だった。この映像を流した意図が資料に書かれてあるが、1月から12月の四季の変化を一挙に見ること

ができた、普段と違った魅力を生み出すことができるという実感がわいた。観光のために使うには、もってこいだと思った。そうした際、君田の太陽光発電の映像が入っていたが、これも三次のあっちこっちということで、よかったと思う。映像の長さの長短があったが、太陽光発電には賛否があろうが、見た人が感じるものがあればいいのではないか。また庄原の国営備北丘陵公園のイルミネーションが流れたが、その辺はやや疑問に感じた。皆さんの話にもあったが、三次出身の方の歌ということで、映像よりBGMに意識がいった面もあった。そうしたことにも制作意図があったのかと感じた。

会長（司会） 私も、高谷山展望台に設置してあるカメラの映像とか、馬洗川沿いや、国道に設置してあるカメラの映像を見ることができるが、今回のドローンを使った映像は日常では見ることのできない映像であった。通常の目線でない映像で素晴らしいものがあった。臨場感やスケール感が、全くこれまでとは違う新鮮さがあった。以前は航空写真も撮影されたことがあったが、ドローンを使用した映像はヘリコプターより低価格で撮影できるのではないか。一人で撮影できるものなのか。

会 社 側 以前は撮った映像を、一旦ドローンを降ろしてパソコン等に取り込んで映像を確認するといった作業だったが、今は手元で操作しながら映像も見ることができるドローンを各社が使用し始めた。当社もこれまで借りた機器で撮影してきたが、この度会社として購入した。バッテリーにもよるが、1回のフライトで25分程、撮れる。長時間になると、バッテリーを交換して飛ぶ。音声の収録はできない。草刈機の音と同じくらいのプロペラの音がする。

会長（司会） 各委員さんから様々な意見を聞かせていただいた。工夫すればもっと様々な映像が撮影できるのではないか。

委 員 司馬遼太郎さんの多くの作品には、物語を俯瞰して表現するといった手法が使われているが、三次の町の下からの映像と、俯瞰して上から撮った映像をあわせて流すと、また楽しいかもしれない。

委 員 川沿いに映像を撮影するとか、道路沿いとか、何回か時期を変えて、例えば三和の千本桜などを紹介すると、面白いのではないか。

委 員 ドローンはバッテリーの準備によっては1時間撮影できるものもあるのか。また、どれくらい離れても、操作が可能なのか。

会 社 側 産業用の機器だと大型バッテリーを積載でき、より長時間飛行できるものもある。機種によっても、電波の強さによっても、またGPSの正確さによっても、飛行範囲は限定されるが、約2キロの距離までは可能である。事故があったりしたので、様々な飛行規制がある。免許を取得してかつ、飛ばしやすい状況でないと撮影できない。

委 員 昨年7月の豪雨の際、空撮映像を撮影して紹介されていたが、こうした映像

で多くの方が状況を確認できることで、地域の力につながると感じる。そうした際にも、より長く撮影できるよう開発されたらという思いがある。

委員 ドローンの利用については、免許や研修が要るし、機器も必要なので、市ではどういう体制がよいのか、まだ決定していない。しかし市としても、ドローンの必要性や有効性は感じている。赤外線カメラを装着すれば夜間の飛行や撮影も可能になり、災害時に活用できる。

会長（司会） 災害時にドローンの映像が出ると、ものすごくわかりやすいのではないかと思う。150mの高さ制限があるようだ。人口集中地域や空港の近くはダメということを検索して知った。

会社側 高さなどはコントロール機器に表示される。規制値内に入るようコントロールする。また自動運行の機能も付いている。

委員 画面の下側に文字が出ていたが、見づらかった。どういう仕組みで入れたのか。

会社側 画面の下側に、（そこで流れている）音楽の曲名と歌手の紹介内容を入れた。

委員 4Kで見ると色鮮やかに、より鮮明に見えると思う。期待される。

委員 今回1月から12月の映像を見たが、今後どんな企画をもっているのかお伺いしたい。

会社側 次は5月に放送を予定している。例えば雪が降ったりした映像は上空から見るとわかりやすい。しかし、上から見ると逆にきれいじゃないものもある。今回これだけ資料映像を使うとは思っていなかった。1回の撮影で情景を紹介しようと思っていたので、上からの映像だけしか撮影していなかった。今回いろいろご意見を伺って、下からの映像も合わせて紹介できるよう挑戦していきたい。

委員 立山から剣岳をドローンで撮影した番組があったが、誰も見たことの無い素晴らしい映像が紹介されていた。これから様々なものを上から、下から撮影してほしい。

委員 今まで、失敗はありませんでしたか。

会社側 失敗は事故につながるので、あらかじめ、どのようにしたら（事故なく）撮影できるかを考えて飛ばしている。これから時間が経過していくと、今の機器のメンテナンスが必要になってくるし、故障が必ず発生する。まだ使い始めて間もないが、どのくらいから、そういうことが必要になるかも考えておかななくてはならない。安全に飛ばすにはどうするかが上級者には求められてくる。

今は、ドローン映像の需要が高くなるとあって、インターネット上では様々な機体の特徴や、地域による自粛要請なども発表されている。

- 会長（司会） 「川西の歌」があったが、その情報は持っていたのか
- 会社側 これは「川西の歌」ができた時に、それに合わせた映像を撮ってほしいと依頼があり、歌詞に合わせた川の映像や住民の人たちの映像を撮影していたのでこの際それを使用した。
- 委員 川西では「郷の駅」を作られ、小学校で人文字をつくり空撮されたことがあった。5つの集落がまとまっている地域だ。
- 委員 こうした映像を観光資源として、各方面で放映するとかの計画はあるのか。
- 会社側 ドローンの映像の活用は様々な形が考えられるので、時節に応じて活用していきたい。
- 会長（司会） この後はドローンを離れて、平素の番組に対するご意見もいただきたい。
- 委員 以前「もののけ」に関する番組の審議をしたことがあったが、いよいよ4月に、「三次もののけミュージアム」がオープンする。何か事前に、紹介するような企画はないのですか。
- 会社側 市の広報番組で、取り上げる予定である。開館したあとの、連休中のイベント等を紹介する予定だ。
- 委員 「もののけ博物館」が完成するまでには、各方面で大変な努力をされた。特別番組を放送するなどの努力があつてのことだと感じる。
- 会長（司会） 文化連盟さんとは、何か関わりがあるのですか。
- 委員 文化連盟では創作オペラを作って、これまで2回上演した。文化連盟では「芸術文化」としての位置付けをしているので、英文化してアメリカへということも考えた。一応準備はできているが、文化的な視点で三次の文化を紹介し形作っていかうとしている。
- 委員 市のホームページからアクセスしたら、現在の状況が判るようになっている。現在YouTubeでオリジナル映像を作ってもらって掲載している。その中で「もののけ博物館」も紹介している。4月26日がオープン予定だ。リーフレットは作っているが、冊子はまだ作っていない。情報発信の方法を模索している。利用者の状況に応じてメディアに掲載していく予定だ。
- 委員 火災情報など地域情報を安芸高田市では流しているが、三次市内では早期発見・早期対応のためにも音声告知放送等で（火災発生情報を）流してほしいと思う。どうにかできないか。
- 会社側 今、備北消防組合と当社がドローン活用について災害時の撮影協定を結ぶ準備をしている。災害時における情報の伝達をより積極的に実施しようとしている。3月になって、今言われた火災情報等が消防署と共有できるようになれば市民の皆さんに伝達可能になるかと考えている。大きな災害の時は、三次市の災害対策本部でまとめられた情報で、そこで確認できたものを当社が放送するというスタンスでいるので、市と防災協定を結んで協力体制を進めたいと考え

ている。

委員 情報を共有して活用するのはわかるが、協定を結ばないとできないのか。

会社側 協定があることで積極的に情報提供を依頼できる。現在、三次市の危機管理課や秘書広報課から、あるいは警察署から当社のデータ放送に直接情報を入力して、情報を流すことが可能となっている。

会長（司会） 火災に関する通報があったとしても、報道機関は間違っただけで、確証を得なければ、すぐ情報を発信することにはならない。そこはちょっと難しい。

会社側 備北消防から入った情報であれば、そこで確認されているという認識の下で、情報を流すことはできる。一般市民の方からの情報は、本当かどうか確認しないと報道してよいか判断を問われることもある。

委員 今の時点では、市から情報が入っていないということか。

会社側 今の状況は、どこどこで火事が発生しているという（日常的に起こる）情報を当社が入手して放送するという体制になっていない。大きな災害とか、災害が予測される前の、避難情報を含めた注意喚起の情報は、市と当社の間で情報共有して対処している。そういう情報は、データ放送やテレビの番組を通して流すようにしている。

委員 7月の災害時には、祝橋の映像がずっと流れていたが、ほかの場所の情報も流そうと思えば流せたということか。

会社側 我々は、市民の皆さんに必要な情報を流すことを念頭においている。夜間のため、ほかの地点のカメラ映像は暗かったため流さなかったということはある。備北消防との協定は、ドローン映像活用に関するものであるが、今後はほかの情報も共有しやすくなると考えている。

委員 現在進行している状況に比べて、情報が出るのが遅い。

会社側 我々が流す情報は、正しいものでなくてはならない。そのため、情報をどのように確認するかが重要となる。遅くても確認しないと、今は個人情報もあるので大変難しい問題である。

会社側 補足させていただく。現在、音声告知放送で情報伝達をしているが、災害時には市の危機管理課から市内全域に一斉に放送をする。しかし通常は、支所単位で運用しており、支所によって対応はまちまちである。地域によっては、消防団出動の情報を、音声告知放送で流している支所もある。各地区での対応の違いという問題点が確かにある。

できるだけ市民の皆様へ情報伝達するために、消防とのドローンの協定や、市の危機管理課との覚書とか災害時の協定などを結んで、協力しながら情報発信をするよう進めているので、ご理解いただきたい。

委員 支所では、備北消防から火災情報が入れば、直ちに音声告知放送を流すこと

になっている。消防団には同時に消防団メールが発信される。

情報伝達には、どのようにして正確に迅速に伝えていくかが課題なので、機器の整備をしたり、情報手段の在り方を見直したりしている。ケーブルビジョンとも協力して前に進めたいと考えている。

委員 児童生徒さんの活躍や体験を放送されることは、子供さんたちにとって、自分たちが動いたことが映像で見られるので、学習意欲に繋がり、道が開けて自分たちの未来に向かっていくという時、ワクワクしながら見ている。これからも楽しみにしているので、続けてほしい。

会長（司会） 皆さんの意見が出揃ったようだ。本日も貴重なご意見をいただき、感謝する。これで放送番組審議会を終了する。

5 閉 会 事務局が本日のニュース番組「情報ストリート、あっちこっち三次」で、この審議会の模様を放送し、議事録を HP に掲載することを伝え、閉会した。